

Finggal Link

Cure Spray Case Report Vol.2

キュアスプレー
ケースレポート Vol.2

悪性腫瘍の自壊創に対するキュアスプレーを用いたスキンケアの使用経験例



独立行政法人 国立病院機構
 都城医療センター
 副看護師長 皮膚・排泄ケア認定看護師
 平野 香奈 先生

今回は、キュアスプレーC01(皮膚粘膜治癒材)／(関連特許保持者は同センターの田畑雅士先生)を用いた、悪性腫瘍の自壊創に対するスキンケアの使用経験例のお話をさせていただきました。

はじめに

悪性腫瘍による自壊創は、疼痛、出血、滲出液、においなどを生じ、身体的問題だけでなく、恐怖、悲嘆、不安などの精神的、社会的苦痛などを起こし、患者のquality of life (QOL) に大きな影響を与えてしまいます。そこで、自壊創をもつ患者が、自壊創を保有しながらも日常をよりよく生き抜くために、キュアスプレーを用いたスキンケアの使用経験についてご紹介いたします。

自壊創とは？

皮膚に二次性局所浸潤もしくは転移・再発したがんが、皮膚を破って創傷を形成し、体表面に現れた状態で、腫瘍が壊死・自壊して形成した創のことを指す¹⁾。

臭い
 壊死した腫瘍に存在する嫌気性細菌と好気性細菌の相乗作用、体液や滲出液の混入による

滲出液
 壊死した腫瘍や創自体から排泄され、量が多い

疼痛
 自壊創そのものだけでなく、原疾患からの影響やケアにより痛みを生じる

出血
 自壊創に存在する豊富な血管の損傷による創への接触やドレッシング材交換時の刺激が原因

自壊創の発生部位頻度²⁾

①乳房 39~62% ②頭頸部 24~33.8% ③体幹 1~3% ④大腿部・腋窩 3~7.4% ⑤会陰部 3~5.1% ⑥その他 3.7~8%

自壊創の症状は？

滲出液や血液が皮膚に付着すると浸軟などの皮膚障害が発生する。

多量の滲出液のために、一日に何回もガーゼやパッドを交換する状況は、創部のケアに費やす時間やコストがかかるうえ、精神的ストレスにもなる。

また、水・電解質バランスが崩れて脱水傾向に陥り、疲労感や倦怠感が生じている場合もある。

臭いは、本人だけでなく周囲の人にも感じられることから、外出を控え、対人関係や就労にも影響することもあり得る。

痛みや出血は、一時的なこともあれば持続することもある。耐えがたい痛みや多量の出血は、一度でも経験すると、恐怖や不安、予期的な痛みをきたす場合がある。

また、二次的な障害として、創周囲の皮膚障害、創部感染、瘻孔形成が生じると、局所症状がますます増強してしまう。

自壊創に対するキュアスプレーを用いたスキンケア症例

80歳代の女性。右側下顎歯肉がん（外科・化学・放射線療法施行）の頸部リンパ節転移の再発。下に示す写真のように、右頸部自壊創あり、自壊創より処置時の出血があり、疼痛も強い。自壊創部の保護を目的としてキュアスプレーを選択し、使用した。



自壊創の前面および側面像

(1)処置方法

- ① 微温湯で軽く自壊部を流す。
- ② キュアスプレーを自壊部全体に散布する。
- ③ 創傷用シリコングルメッシュドレッシング（エスアイメッシュ）に切り込みを入れて自壊部に沿うように貼付する。
- ④ 不織布ガーゼ（ハイゼガーゼ）で保護する。

※皮膚にテープ貼付すると、剥がす際に疼痛やスキナーテアを引き起こす可能性があるため、不織布ガーゼ同士をテープで固定し、皮膚にテープ固定しない。

(2)創部の状態

- ① 外観：潰瘍表面はきれいになっている印象であった。
- ② 臭気：交換時に悪臭は軽度あるものの、洗浄後消失した。
- ③ 創部の大きさ：自壊創部の潰瘍面の増大などはみられなかった。
- ④ 出血：洗浄時に中央にある1.0cm大の離開部（3ヶ所あり）から、ジワジワとした出血を認めた。キュアスプレー散布後、一時的に出血は収まるが、頸部を動かしたり、刺激を与えたことにより、再度、出血を認めた。
- ⑤ 疼痛：持続的鎮痛剤（麻薬）使用中であったため、キュアスプレー単独による疼痛の評価はしていない。

考察

自壊創は病状の進行とともに大きく悪化しますが、本症例においてはキュアスプレーを使用することで潰瘍面の増大はなく、悪性腫瘍患者への使用に問題はありませんでした。

自壊創で大きな問題となる臭気に関しては、顕著な悪臭もなく、患者や周囲への精神的・心理的ストレスは軽減されたと考えます。

自壊創からの出血に関しては、自壊創は腫瘍の一部であり、血管が豊富に存在します。血管は脆く、毛細血管や、時に動脈の破綻により出血がみられます。このような状況でも、キュアスプレー塗布により、創部から出血は一時的に収まるので、頻回のスプレー塗布で対応していく事により、出血による貧血などの病状を軽減できるかもしれないと考えます。

キュアスプレーを使用した結果、連日に及ぶガーゼの平均的な通常交換頻度と比べて、明らかに交換頻度を減らすことができたことと認識し、頻繁な洗浄やガーゼ交換に伴う出血や疼痛に対して、患者への負担が軽減されたと評価しました。

結語

自壊創の発生部位頻度に示すように悪性腫瘍による自壊部位として、乳がんが最も多く報告されています。したがって、頭頸部だけでなく、乳房などへのキュアスプレー塗布により、自壊創に対する頻繁なスキンケアを減少させることができれば、患者のQOLを維持するのに有用であると考えます。

文献

- 1) 盧野吉和. がん性創傷の成因と治療. がん患者の創傷管理：症状緩和ケアの実践. (松原康美、盧野吉和編)、20-67、照林社、東京、2007.
- 2) McDonald A, Lesage P. Palliative management of pressure ulcers and, malignant wounds in patients with advanced illness. Journal of Palliative Medicine. 9(2), 285-95(2006).

-
- ・取材：2025年2月 オンラインにて、フィンガルリンク(株)が取材しました。
 - ・一施設の事例であり、製品の使用により、悪性腫瘍の自壊創の治癒を保証するものではありません。
 - ・キュアスプレーは(株)キュア薬品の商標です。
 - ・製造販売元はキュア薬品、発売元はフィンガルリンクです。

 - ・一般医療機器 液体包帯
 - ・届出番号：46B3X10006000001/販売名：キュアスプレーCS1（皮膚粘膜創傷治癒材）

禁忌 1.使用目的以外の用途で使用しないこと。
2.本剤に配合された原材料に対し、発疹・皮膚炎等の過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと